



## なりたい自分になる秘訣その2「他者の自由を尊重する」

人生の最終目的は何だろう。少々小難しい話題を、6年生の子どもたちに投げかけてみましょう。どんな答えが返ってくるのでしょうか。

「長生きをする」「幸せになる」「誰かの役に立つ」「持続可能な地球を創る」・・・

休み時間にもかかわらず、この後も議論は続きました。本当よく考えている。感心します。

この話題、実は哲学では古くて新しい話題です。2000年以上前から議論されてきたテーマだそうです。もちろん答えは様々にあるのですが、ドイツのヘーゲルという哲学者は、人生の最終目的を「自由」と考えました。この考えは、大変多くの人々に影響を与えています。世界の経済や教育をリードする機関である OECD（経済協力開発機構）では、「Well being」と表現しています。榆木小学校風に読むと「なりたい自分になる」ですね。

哲学者ヘーゲルは、さらに次のように論を進めます。ただし、その自由は自分だけではなく、他者の自由も承認できねばならない。だから、「自由の相互承認」が必要だ。

はて？自由の相互承認とは？

6年生の社会では、「公共の福祉」という言葉を使って、自由の相互承認と近いことを学びます。日本国憲法第十二条には次のように書かれています。

「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。また、国民は、これを濫用してはならないのであって、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負う」

そう、自分の自由のために他者の自由をだめにしてはいけません。

ここで、いつも悩む。自由は制限されるのか。他者は自由を阻害するものなのか。

多分、私のこの考えが前提になっているから、いつもここで思考が発展しないのだと思います。だから、前提を変える。自分の自由を謳歌しようとする、他者の自由を犠牲にしてしまう、のではない。自由を求める権利は、すべての人が生まれつきもっているもの。お隣のお友達も、目の前の先生やおうちの方も、そしてまだ出会っていないかもしれない大切な誰かも。だから、その人たちも自分と同じように、自由を追い求めているはずだ。まずは、そのことを自覚するということが必要です。そして、その人へ思いを馳せる。この人はこんな自由を追い求めているんだな、だったら自分にもできることはないだろうか。私の自由と一緒に達成できることはないだろうか。むしろ、協同で挑戦したほうがよりよい自由が掴めるんじゃないだろうか。もっと愉快的な自由が待っているんじゃないだろうか。

他者の自由がよくわからなかったら、話を聞いてみる。例えば、全員遊びの場面。なんでたかしさん（仮名）はドッジボールにこだわるのだろう。みなみさん（仮名）はなんでやりたくないだろう。対話を通して、相手の思いを理解する。そして、尊重する。だから、私の自由へのあくなき挑戦は、また一歩素敵な歩みを進めるのです。

うわっ、今回のはちょっと小難しすぎて引きますね。反省。